

指定管理者評価表(外部評価シート)

1. 基本事項

		評価対象期間	平成28年4月1日 ~ 令和2年3月31日		
施設の概要		指定管理の状況			
名称	老人福祉センターやすらぎ館	指定管理者	名称	公益社団法人可児市シルバー人材センター	
所在地	可児市兼山1011番地1		所在地	可児市今渡682番地1	
設置目的	旧兼山町時代に、高齢者の憩いの場が無く、町外の福寿苑等を利用していたが、高齢者のため移動手段が限られ、継続利用が困難であった。今後、高齢化率上昇し、来るべき高齢社会を見越すとともに、高齢者に対する健康増進、教養の向上、生きがい支援などを目的とした、老人福祉法の規定による老人福祉センターを設置しました。	指定管理期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日 (2期目)		
		選定種別	公募・非公募	利用料金制	採用(一部・完全)・不採用
供用開始年月	平成5年4月	業務内容	生活相談、健康相談、機能回復訓練、教養講座、施設の設備・備品貸出、施設の設備・備品維持管理、やすらぎ館の設置目的を達成するために必要な業務のうち市長の権限に属するものを除く業務		
施設所管部署	福祉部 高齢福祉課				

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	241 日	242 日	241 日	222 日
施設利用者数	7,470 人	8,581 人	9,026 人	8,228 人
1日平均利用者数	31 人	35 人	37 人	37 人

② 自主事業実施状況

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開催回数	51 回	77 回	87	79
参加人数	965 人	1,869 人	2,135 人	1,987 人

③ 主な自主事業の内容

実施年度	事業の名称等	参加人数
令和元年度	抹茶喫茶 全11回	250 人
令和元年度	脳トレ 全12回	172 人
令和元年度	認トレ 全21回	560 人
令和元年度	かな習字 全10回	102 人
令和元年度	寄せ植え教室 全2回	42 人
令和元年度	アルパ演奏会	31 人
令和元年度	民謡演舞会	32 人

3. 収支状況

① 収入

単位:円

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
指定管理料	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,100,000
デイサービス光熱水費	2,060,000	2,060,000	2,060,000	2,079,074
収入計 A	12,060,000	12,060,000	12,060,000	12,179,074

② 支出

単位:円

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費 <small>以下主要な項目</small>	11,688,485	12,574,164	12,774,751	12,633,750
光熱水費	3,794,385	4,226,565	4,695,655	4,482,025
支払配分金	2,231,865	2,750,140	2,385,960	2,359,170
委託費	2,311,418	2,416,242	2,544,884	2,644,658
臨時雇賃金	1,782,850	1,736,325	1,732,250	1,599,350
修繕費	76,464	279,515	172,800	268,504
保険料	106,800	106,800	106,800	106,800
支出計 B	11,688,485	12,574,164	12,774,751	12,633,750
収支 A-B	371,515	-514,164	-714,751	-454,676

4. 評価結果

区分	評価項目	評価内容	一次評価(施設所管課)		二次評価(選定評価委員会)	
			評価理由等	評価	評価理由等	評価
業務の履行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	各種事業や委託業務等について、事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されている。	B	令和2年3月から新型コロナウイルスで閉館しているが、1日あたり利用者数は変わらず、施設利用者数、自主事業の参加人数が増加しています。少ない人員で、適切に業務が遂行されており、安全に利用できるように管理されています。緊急時の対応や訓練についても、計画的に実施してより安全に利用できるように対応が必要。	B
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	管理者や事務員、看護師等必要な人員が確保され、情報共有、連携されている。	B		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	事務所の書庫、書棚に適切に整理保管されている。	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	消防や空調等の設備の定期的な保守管理が実施され、また、不具合発生時の対応も適正におこなわれている。	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていますか	マニュアルの整備と職員への情報共有ができています。新型コロナウイルス対応では市と協議し、安全を最優先し閉館した。	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	30年度までは、事業の開催数も増え、順調に利用者数も増加している。令和元年度は、新型コロナウイルスの影響もあり減少。	B		
サービスの水準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	平成30年度の途中からかな書道教室を開始。認トレを中心に各教室の参加者も安定しており、多彩な演奏会が好評である。	A	健康増進、教養の向上、生きがい支援などにつながる、多彩な事業が実施されており、確実に利用者の増加につながっています。利用者の満足度が高いが、利用が一部の人たちに固定している傾向があるため、より幅広く利用されるようPRが必要。	A
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	満足度を高めるため、意見箱を設置。意見を参考に演奏会等を充実させた。	B		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	兼山地区へのチラシの回覧、苑内への掲示で広報できている。	B		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	苦情・事故発生時の体制整備と、市への報告が適正に実施されている。	B		
収支状況	指定管理経費の経理事務の状況	指定管理費に関する経理事務は適正に行われているか	初年度は黒字であったが、過去3年については、光熱水費や修繕費の増加により赤字となっている。	B	3年連続の赤字は気になるが、指定管理費は適正に執行されている。収支の赤字の改善が必要。	B
	指定管理者施設の財務状況	指定管理者施設の財務状況は適正か	適正に実施されている。	B		
総合評価			当初に比べ事業の回数も増えており、結果、利用者の増加につながっている。設備の老朽化や燃料費の増加により、指定管理料を超える支出となっているが、施設の点検・管理についても問題なく対応できている。	B	「所見」欄に記載	B

所見	<p>多彩な教室、演奏会等を行っており、又、利用者の意見を参考に演奏会等を充実されていることは、おおいに評価できます。</p> <p>収支が3期連続マイナスという点は、心配な面もあるが、金額的には大きなマイナスではないので、内容を見直して黒字に改善できるよう努めていく必要があります。</p> <p>利用者数が増加しており、このまま取り組みを継続していただきたいが、利用者が固定化されている傾向があるため、特に男性利用者・60歳際利用者を増やす方法を検討し、実施していく必要があります。</p> <p>全体的には適切な運営がされています。、令和2年3月からは新型コロナウイルスで閉館となっているが、利用者数の増加や事業内容の見直し、サービスの水準の維持・向上に取り組む等指定管理業務が適切に実施されており、地域に愛されている施設となっています。</p>
----	--

5. 参考(評価基準)

① 区分別評価基準

◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されてないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

② 総合評価基準(評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する)

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項が
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である